

プロジェクト特性から考える ITシステムにおける品質管理計画—品質を“後付けにしない”ための計画と評価—【会場】（4126210）

ITシステムにおける品質とは何か、その品質を保証するために計画段階で何を考慮すべきかを解説します。さらに、品質評価の進め方や評価観点について説明し、品質を“後付けにしない”ための品質管理計画を立案するために必要な要素を習得します。

開催日時	2026年10月25日(水) 18:00-17:00会場
JIS研修券番号	プロジェクトマネジメント(品質マネジメント)
カテゴリ	IT技術/ITマネジメント・プロジェクトマネジメント 詳しくはこちら
講師	本村 雅也 <small>(株式会社日立製作所「プロジェクトマネジメント推進本部」) <small>2005年 株式会社日立製作所に入社。従事し「東京ITシステム開発」を創設。1984年からは、プロジェクトマネジメントとしてプロジェクトを統括。2002年から担当業務内のプロジェクト全体を管理する職としてプロジェクトへの指導を行いながら、社会活動としては各企業での講演や雑誌の寄稿対応などを行っている。現在は、社内外のプロジェクトマネジメント関連の活動を行いながら、研修講師や社内サイトへの連載記事執筆などを行い、これまでの実体験のノウハウを伝授に努めている。</small></small>
会場	株式会社日立製作所 ITC 251 2階 1号、2号席 (1名様あたり 1名様のみ) 食事代込み、テキスト込み) [受講権利依頼]
対象	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 [協賛企業システム27]
対象	プロジェクト管理における品質管理計画の作成時の観点と留意点を学びたい方 [詳細]
参加形式	講義、グループ演習
費用	25,000円
参加ポイント	※IT知識がポイント対象のセミナーです。(ご質問はポイント)
IT知識検定	6

主な内容

■ 受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■ テキスト

当日配布

■ 開催日までの課題事項

特になし

プロジェクトは「唯一無二」という特性を持っています。そのため、プロジェクト計画においては、それぞれの特性を踏まえた検討が重要です。

しかし実際には、その特性を十分に意識せず、「品質」をITシステム上のモノ（プログラム）だけに着目して評価しているケースが見受けられます。モノに着目した品質評価も重要ですが、それだけではシステム全体の品質を十分に担保できません。プロジェクトは「人」によって推進されるものであり、その影響を含めて品質を考える必要があります。

また、モノに着目した品質評価であっても、関係するステークホルダの納得を得るために、計画段階でどのように品質を評価するのかを設計しておくことがポイントです。本セミナーでは、「品質」の定義の確認から始め、ITシステムにおける品質とは何か、その品質を保証するために計画段階で何を考慮すべきかを解説します。さらに、品質評価の進め方や評価観点について説明し、品質を“後付けにしない”ための品質管理計画を立案するために必要な要素を習得します。

(1) 品質管理計画のベースとすること

- 品質とは
- プロジェクトの特性から考慮すべきこと
- 「マネジメント」の意味（人を意識する）

(2) 品質目標

- 目的／目標／計画の関連性
- 品質目標の設定の在り方
- ワークショップ（品質目標の設定）

(3) 品質評価を考慮した計画要素

- 品質評価の考え方（PB曲線、工程別評価、時系列評価）
- 評価時に必要な要素（ワークショップ含む）
- 品質評価の決裁
- 人的マネジメントの要素

(4) システム改修時の品質評価の特性

・新規と改修の品質評価の違い

(5)品質管理計画の要素

- ・ 指標値の考慮点
- ・ 取得すべき情報
- ・ フィードバック視点

(6)プロジェクトマネジメント自体の評価